

造成ヨシ帯におけるコイ科魚類の産卵量

田中秀具・上野世司・上垣雅史

1. 研究目的

琵琶湖の周辺に存在するヨシ帯は、その多くが開発行為等により消失し、魚類繁殖場としてあるべき場所が失われた。そこで新たに造成されたヨシ群落の産卵場としての生産能力を北湖、南湖各 1 箇所について調査した。

2. 研究方法

長浜市海老江地先(丁野木漁場)と草津市南山田町地先(南山田漁場)において、4 月 15 日(山田は 4 月 16 日～)～6 月 25 日の間、概ね週 1 回の頻度で、計 10 回、塩ビパイプ枠(50cm×50cm)にキンランを取り付けた産卵基体を 7 ヶ所(山田はヨシ帯の幅を考慮

図 1. 丁野木漁場の調査地点

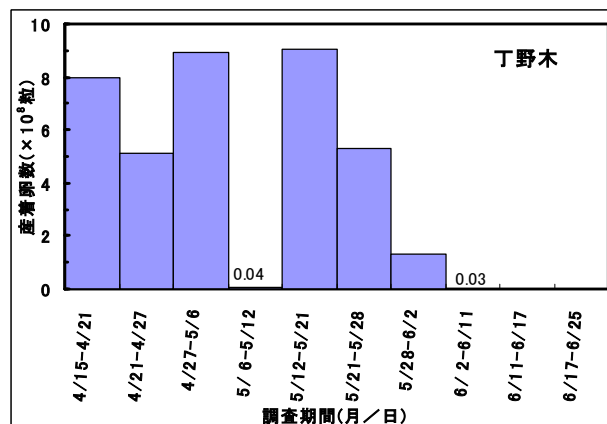


して 5 ヶ所)、岸から沖に向かって設置し、フナ、コイ類の産卵状況を調査した(図 1, 丁野木の例、なお、丁野木は Sta.1 の岸側にヨシのない水面があるため、そこに Sta.0 を設けた)。

3. 研究結果および考察

丁野木漁場でコイ科魚類の産着卵が認められたのは 4 月 15 日～6 月 11 日の期間の 8 回

図 2. 産着卵数の推移(丁野木漁場)

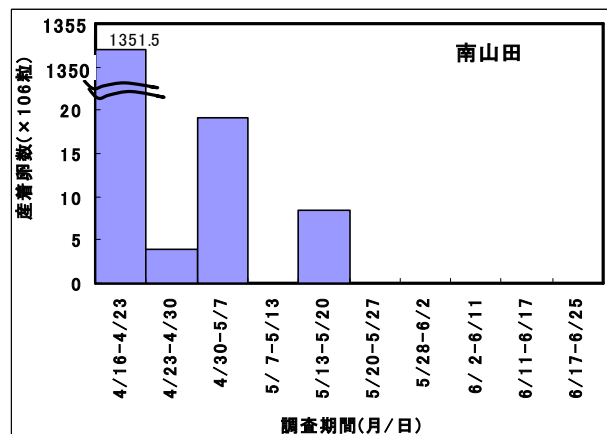


であった(図 2)。

南山田漁場では、4 月 16 日～5 月 20 日の 5 月 7～13 日を除く 4 回であった(図 3)。

図 3. 産着卵数の推移(南山田漁場)

産卵基体の産着卵数から推定された漁場内のコイ科魚類の総産着卵数は丁野木漁場が約



37.8 億粒、南山田漁場が約 13.8 億粒であった。なお両漁場共に調査開始時には産卵が始まっており、特に南山田は、調査開始時の 4 月 16～23 日に総産着卵数の 97.7%を占めた。すなわち、調査開始以前の産着卵の存在も推察されることから、これらの推定量、特に南山田漁場は過小評価となった可能性がある。